

# 令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

## 学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

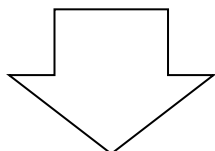
## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律の重視
- ・互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う集団づくりの推進

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普段からの読書への取組が、特に物語文の読解力の向上につながっている。</li> <li>▲説明文において、必要な情報を取捨選択し、要点を簡潔にまとめることに課題が見られる。</li> <li>▲漢字の読み取りは概ねできているが、漢字の書き取りに関して正答率が下がる傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校での週1回の朝読書や宿題での音読カードの取組などを通して、意欲が高まっている。</li> <li>▲要点を捉え、まとめるときの視点が定着していない。</li> <li>▲学習したことを活用する機会が少ない。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数の課題に対して、意欲的に取り組み、基礎・基本の定着率は非常に高い。</li> <li>▲平行四辺形やひし形などの四角形の特徴を生かした応用問題に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別少人数指導において、担任、専科との指導方針方法の共有ができ、個々の児童に応じた指導ができている。</li> <li>▲既習事項の定着が不足している課題が見られる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験や見学したことを新聞やパンフレット製作に意欲的にまとめることができる。</li> <li>▲複数の資料を比較しながら情報を読み取り、そこから何が言えるか、何を考えられるかを表現することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に体験、見学したことをどのようにまとめるかを確認し、活動をすすめてきた。</li> <li>▲資料から多数の情報を整理して共通点や相違点などの視点をもつことが苦手である。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験や観察などの学習に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>▲生命や地球領域における知識に課題が見られる。</li> <li>▲電気のはたらきについては、電流の基礎的な知識に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材を工夫し、学習のめあてを明確にした指導ができている。</li> <li>▲体験・経験不足から学習単元の重要概念を獲得しづらい。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自ら考え、学び合う学習を展開することで、技能や体力の向上が見られる。</li> <li>▲体力調査において、柔軟性や投力、握力が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校における授業のスタンダードができしており、それに沿った指導ができている。</li> <li>▲運動経験の差が運動技能の差につながっている。</li> </ul>

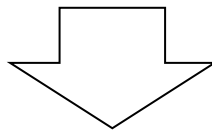
学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律を意識して児童が活動し、落ち着いた学習環境を整えていく。</li> <li>・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。</li> <li>・朝学習における漢字・計算練習の積み重ねや放課後や夏季休業中の補習学習により、基礎学力を高めるようにする。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「学校の約束を守っていますか」において肯定的評価95%以上を目指す。</li> <li>・東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）において達成率85%以上、漢字検定において合格率90%以上を目指す。</li> </ul>
②授業改善	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の計画、実行、評価、改善を常に行い、学級の実態、また個別に支援が必要な児童に合った授業ができるようにする。</li> <li>・学習のねらいを具体的に設定するとともに振り返りの時間を確保することで、児童が1単位時間の中でどのような力を身に付けることができたかを実感できる授業を行う。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「授業の内容がよく分かる」において、肯定的評価が95%以上を目指す。</li> </ul>
③教員の指導力	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究や本校研究の中心でもある「関わり合い」をテーマに、教員相互に授業観察を行いながら、授業力を向上させていく。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価保護者アンケート「学校は学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」において、肯定的評価が90%以上を目指す。</li> </ul>
④家庭との連携	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学年の方針、取組等を保護者に伝え、協力体制を作る。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、分かりやすくても内容も適切である。」において肯定的評価が90%以上を目指す。</li> </ul>
⑤体力向上	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「休み時間は外に出て、元気に遊ぶことができていますか」において、肯定的評価が80%以上を目指す。</li> </ul>



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	チャイム着席、始まりと終わりの挨拶を徹底し、児童1人1人が授業開始と終了を意識できる、けじめある授業を行う。
取組Ⅱ	授業中での言葉遣い、自分の考えや意見を他者に分かりやすく伝える話し方を、児童の発達段階、学年・学級の実態に合わせ提示していく。
取組Ⅲ	各教科で身に付けた知識・技能を活用し、他者との交流を図る場を設定し、児童の考えを広げ、深めていく。
②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領で示された各教科の目標の3つの観点を捉え、指導書、過去の実例を参考に教材研究を行い、児童の実態に合った授業を提供していく。
取組Ⅱ	児童が1単位時間に見通しをもって取り組めるように、単元のめあての具体的な設定、評価を行う場の設定、児童の習熟度を確認にする振り返りの時間の確保を行えるような授業デザインを行っていく。
取組Ⅲ	学習指導要領で整理された「知識・技能」「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価を意識した授業構成と1単位時間で具体的に学習評価を行えるように具体的な場の設定を行っていく。
③教員の指導力	
取組Ⅰ	各学年会での話し合いを通して、年間で見通しをもったカリキュラムデザインを図り、授業の計画を立て、実行、評価、改善のサイクルを学年間で行い、授業改善を行っていく。
取組Ⅱ	教員相互の授業観察を行い、教員1人1人が授業構成の視点や児童への声掛けなどの授業への知見を深めていく。
④家庭との連携	
取組Ⅰ	本校の教育活動への保護者の理解を深めていくために、ホームページを随時更新し、本校と保護者との情報共有を積極的に図っていく。
取組Ⅱ	保護者が安心して児童を登校させることができるように、学校便りや学年便り、または連絡帳を通して学級の様子を具体的に伝え家庭との連絡を密にしていく。また、授業準備に必要な物を周知し、忘れ物を少なくし、授業の充実を図れるよう協力を依頼する。
取組Ⅲ	低・中・高学年と各段階の実態に合わせて家庭学習が行えるように、保護者への理解を求め、宿題を毎日出していく。学年便りや保護者会等を活用し、家庭学習の方法や考え方などを保護者へ伝え、協力を依頼する。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	中休みは校庭や体育館で遊ぶよう指導し、体を動かす時間、機会を確保する。
取組Ⅱ	毎週木曜日のロング中休み（30分）では、児童が遊ぶ時間を多く確保するとともに、月一回程度のたてわり班活動では、全学年が企画した大縄チャレンジや様々な遊びに取り組む。
取組Ⅲ	3月に行われる「マラソン大会」を目標に、全学年、体育や体育朝会で時間走に取り組む。また、高学年では、講師を招き「走り方教室」を開催し、走ることへの興味・関心をさらに高める。



### 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	チャイム着席だけでなく、授業開始と終了のあいさつ指導を続けてきた。その結果、児童の授業の始まりの意識を高め、落ち着いて授業を進めることができた。児童に行ったアンケートの「学校の約束を守っていますか」についての項目で肯定的評価が、86.5%と、学力基盤となる学習規律は概ね守ることができた。また、東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）は82%と目標から下回った。一方、漢字検定は意欲的に受験する児童が多く、現在可否の判定を待っている途中である。	児童に行ったアンケートの「学校の約束を守っていますか」において昨年度と比較するとマイナス5.3%（昨年度91.8%）と低下した。全教員が学校の約束の共通理解に基づいた指導を行う。年度初めに児童へ説明、指導を行い、保護者会において保護者に説明し、家庭での協力を得ていく。話し方や話の聞き方については指導を継続していく。各教科において主体的・対話的で深い学びの授業につながるように、タブレット端末の活用を取り入れた授業改善の研究を続ける。
② 授業改善	1単位時間の授業の流れを全校で統一したことで各学年での授業計画の準備、実践、振り返りを効果的に行うことができた。また、指導と評価の一体化を進め、毎回の授業において指導方法等の改善を試みた。児童アンケートの「授業の内容がよく分かる」という項目で、肯定的評価が93.5%であった。さらに、5・6年生の学習力サポートテストの正答率は、国語・社会・理科・算数の4教科とも前年度を超えた。	令和3年度から全児童1台ずつのタブレット端末が配布され、従来とは異なる授業の進め方が期待される。児童の学習への意欲の高まりや表現力、思考力を促すため、全教員がICT機器の操作を学び、授業でのICT活用に差が開かないようにする。そのために、令和3年度はICT機器の活用等について研究を進めていく。
③ 教員の指導力	各学年、週1回以上の学年会を実施し、授業案を考えることで、若手教員の授業への授業力の向上につながった。特に、児童が学習に意欲的に参加して達成感・充実感をもたせるよう工夫し結果、保護者に行ったアンケートの「学校は学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」という項目で肯定的評価が89.1%であった。	低・中・高の学習の系統性を理解した上で、児童に今どのような力を身に付ける必要があるかを考え、各教科の年間の指導計画を立てられるように、異学年の担任で構成したOJTを実施していく。ICT機器の活用で学年・クラス間での使用率、使用内容にばらつきが出ないように、次年度へ向けてICTの研修を計画に行っていく。

<p>④家庭との連携</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業中の家庭学習の提示や学校に関する情報発信、zoomを活用した朝の会の実施など、積極的に家庭との連携を図った。保護者に実施したアンケートでは、「新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校中の対応」について、81.4%の肯定的な結果だった。学校評価保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、分かりやすく内容も適切である。」において肯定的評価86.4%と目標に達成できなかった。</p>	<p>HP 上の内容の精査や情報発信の時期、また、HP に携わる人員の確保など、様々な課題が見られた。家庭との連携にはタブレット端末の活用が欠かせない。教員のタブレット端末の操作だけでなく、その活用に関する保護者への協力と理解を得るために、新年度に向けた情報発信方法の準備をしていく。</p>
<p>⑤体力向上</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、体力向上の取組については大きな制約があったが、密を避ける、手洗いや消毒をこまめに行うなどの対応を取りながら、体育の授業や20分休みを中心に児童の体力向上へ努めた。児童へのアンケートでは、「体力づくりに取り組んでいるか」の項目では、83%が肯定的な回答をした。</p>	<p>3密を避けるために、20分休みを学年別に校庭・体育館を利用させた結果、室内で遊ぶ児童が増えた。児童に行ったアンケートの「体力づくり」の項目では、83%の児童が体力づくりに心掛けている現状から、新しい日常下での児童が体力づくりを行える環境の整備を、本校の実態に合わせて行っていく。</p>